

「軽井沢をしなやかに開く」

～森・まち・人に開かれた交流の場をつくる～

軽井沢には、別荘住民により新しい文化をしなやかに開いていった歴史があります。人の流れ・情報の流れが激しく変化する時代にこの美しい環境を次世代に伝えていくためには、町民・別荘住民・行政が共に育む、新しいまちづくりを行う場が必要です。

私たちは、三者が未来づくりのコミュニティを醸成する場として「森と庁舎・複合施設が融合する環境」を提案します。軽井沢の森に包まれ開かれた場が、新しい軽井沢を生み出す原動力となります。



中軽井沢 初夏の朝、庁舎の風景

「軽井沢をしなやかに開く」3つのデザインコンセプト

1 風土に根ざす「環境デザイン」

■軽井沢の疎林と水景による森づくり

明るい疎林や陽だまり空間、水源の風景を活かした「森の中の交流の場」をつくります



緑豊かな軽井沢の風景

■浅間山・離山と呼応する建築

浅間山の長い裾野・離山への眺望や山並みと呼応する建築をつくります



軽井沢の植生を育む離山

2 人の絆を紡ぐ「地域社会デザイン」

■すべての町民に開かれた交流の場

別荘地が培ってきた、自然とつながる縁側やテラスが生み出す交流の場をつくります



自然と融合した風景(観光協会HPより)

■町民と一緒に作る発信の場

食文化・工芸・芸術・スポーツを織り交ぜた交流を生み出す軽井沢らしい場をつくります



ミニコンサート(観光協会HPより)

3 町民がつくり育てる「創造活動デザイン」

■まちづくり活動の拠点となるサロン

町民と行政が、意見・相談・協働・解決するまちづくりの拠点ををつくります



町民のつどい(観光協会パンフより)

■町民がはぐくむ景観

町民のコミュニティ醸成のために町民と共に「育てる森」をつくります



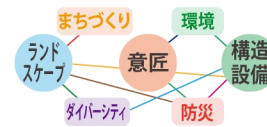
豊かな森の景観(観光協会HPより)

取組体制

庁舎設計・ランドスケープのスペシャリストチーム

■防災・環境・ダイバーシティ・まちづくりを重視

意匠・構造設備・ランドスケープが連携し、軽井沢の立地に特化した庁舎を実現します



■軽井沢の風土を熟知したランドスケープチーム

軽井沢の風土デザイン経験が豊富なランドスケープと協働したチームを構成します



ランドスケープチーム実績

業務実施における配慮事項

地域防災とまちづくりを一体的に計画

■日常イベントが防災活動にもなる

庁舎・複合施設のイベントと連携し、日常的に防災意識を高められる場づくりを行います



防災意識の向上

軽井沢の素材の積極的活用

地場産のカラマツ、浅間石、軽井沢彫などを積極的に活用した庁舎づくりを行います

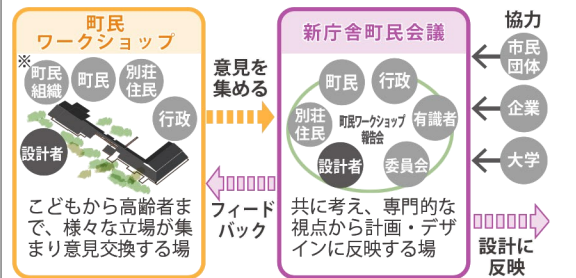


浅間石

取組体制・工程計画

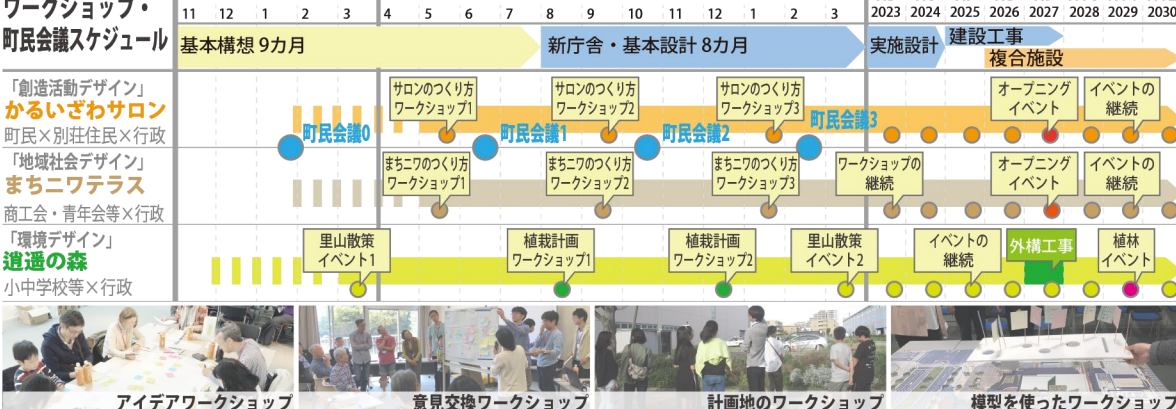
地域コミュニティを育てるワークショップ

ワークショップ・町民会議で、次世代のまちづくりを担う地域コミュニティを育てます



※軽井沢22世紀風土フォーラムなど

ワークショップ・町民会議スケジュール



工程計画

仮設庁舎の費用分でつくる豊かな森

現庁舎横に新庁舎をつくる仮設庁舎が不要な計画です。仮設予算を森の整備に充当します



業務実施における配慮事項

コスト検証しながら進める設計

設計内容とコストの比較を継続的にを行い、費用対効果の高い設計をします

